



下野市【栃木県】 歴史文化基本構想

- 策定年月：平成28年11月 ■ 人口：60,084人 ■ 面積：75km²
- 担当課：下野市教育委員会事務局文化財課（平成30年3月現在）



下野市は栃木県内で最小の市であるが、500か所以上の埋蔵文化財包蔵地と106件の国・県・市指定文化財が存在している。これらは、当地が「北・南と東・西を結ぶ一大交通拠点」として、ヒトとモノの流れがあったことを示している。そこで、古代から近世までの交流や交通を主眼として、各時代ごとに関連文化財群を設定し、文化財の保存活用を推進している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

下野型古墳と古代文化、鎌倉道と中世文化、
干瓢と結城紬、「講」と「祭り」、交通拠点

課題

- ・ 調査研究のかたよりと体制の不備
- ・ 市民への発信力と活用の不足
- ・ 展示・収蔵施設の不足と一元管理
- ・ 関連自治体との相互連携体制

保存活用方針

- ・ 多様で豊富な歴史遺産の顕在化
- ・ 歴史遺産の総合的な活用
- ・ 歴史遺産の保存と継承

保存活用のための取り組み

継続的な調査研究の推進

歴史文化基本構想の具体的な取組を示すため、「歴史的風致維持向上計画」の策定に着手した。これに伴い、今まで不十分であった歴史的建造物や民俗文化財についての調査研究が進んでおり、今後も継続して調査を実施する。



歴史遺産の価値や魅力についての 発信機能の強化

市の歴史文化の魅力を発信するために、史跡等を活用したVRコンテンツの制作を実施している。国指定史跡の下野薬師寺跡や下野国分寺跡、市内の古墳をCGで復元し、これらの史跡や文化財を広く見学できるようガイド機能を持ったアプリを導入した。



歴史遺産活用のための拠点づくり

市民が歴史遺産に親しむための拠点づくりとして、しもつけ風土記の丘資料館のリニューアルを予定している。また歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業を実施しており、地域住民による文化財ガイドボランティアの育成等を行っている。



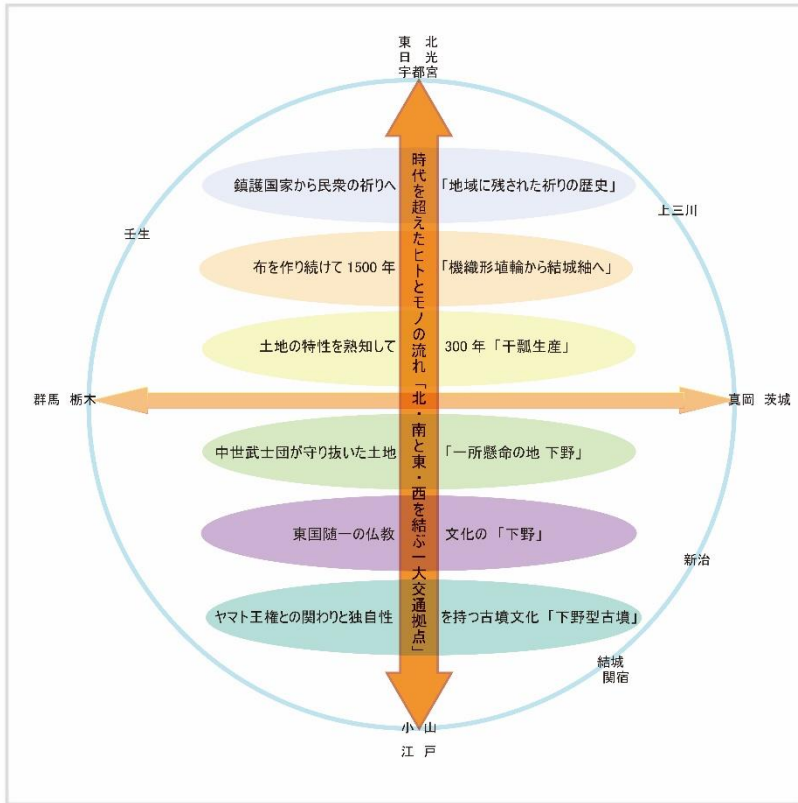
貴重な文化財の指定・保存

歴史遺産の保存を目的として、平成29年度に市指定文化財を新たに3点追加した。今後も調査研究の推進とともに、新たな文化財の指定を積極的に実施する。また、本市独自の認定制度についても検討している。





関連文化財群



下野市の歴史文化の特性を、古代から近世まで、そして民俗を含め網羅的に7つのテーマ（ストーリー）にまとめた。このうち、すべての時代に共通する交通拠点という特徴を、時代ごとの主要な交通路と各ストーリーに結び付けて、4つの関連文化財群（古代交流関連、東山道、鎌倉道、日光街道）を設定している。

ストーリー

- ① ヤマト王権との関わりと独自性を持つ古墳文化「下野型古墳」
- ② 東国随一の仏教文化の地「下野」
- ③ 中世武士団が守り抜いた土地「一所懸命の地 下野」
- ④ 土地の特性を熟知して300年「干瓢生産」
- ⑤ 布を作り続けて1500年「機織形埴輪」
- ⑥ 鎮護国家から民衆の祈りへ「地域に残された祈りの歴史」
- ⑦ 時代を超えたヒトとモノの流れ「北・南と東・西を結ぶ一大交通拠点」



策定後の成果（見込まれる効果）

① **歴史を活かしたまちづくりへ**
歴史文化基本構想を策定したことにより、次のステップである歴史的風致維持向上計画の策定に着手した。課題であった民俗文化財、歴史的建造物の調査研究を大きく進めることができ、都市計画部局と連携して文化財の保存を積極的に進め、歴史を活かしたまちづくりへつなげていくことができる。



② **資料館来館者数の増加**
歴史遺産の情報発信機能を強化するために、VRを活用した事業を展開した。これにより市内の遺跡をより広く楽しめるようになり、市内資料館の来館者数が構想策定後1年で8%増加した。併せて今後文化財周遊の拠点となる資料館の再整備を実施することにより、観光客数の増加が見込まれる。



③ **文化財への関心の高まり**
歴史文化基本構想を策定した結果、地域住民の歴史遺産に対する保護・活用への関心が高まり、文化財ガイド講座には、定員を超える参加者が集まった。文化財ガイドへの登録者は、1年目で20人以上となっている。今後も養成講座を開催し、市民協働で文化財の保存活用を推進する。

